

真の幸せとは

羽島市小熊町 永明寺 乙部 幸子

この世に命を授かって六十五年、寺に嫁いで四十二年、数え切れない方々のご縁を頂いてまいりました。どの方も私が生きる上でとても大切な方ばかりでした。その方々の苦しみ・苦勞・悲しみ・怒り・嫉妬・欲望・優しい思いやり・人として生きる責任感など人それぞれの心の在り方がその人のことばとなり行動となり人生を決めていくものだなと感じさせてもらいました。その方々の中で「ありがたい」と感謝のことばが聞かれたお方がおみえになりました。その方は、戦争や病気又事故などで大切な家族を亡くされた方、今では考えられない「食料」や「物資」もなく苦しい時代を経験された方、目標に向かって努力しても思い通りにいかず失敗された方など自分では避けきれない苦しみや困難に出会われそれを乗り越えられた方のおことばでした。そのお姿から、親鸞聖人の「不断煩惱得涅槃」の正信偈の一句を思い出しました。私はこの一句を「煩惱を断ちきらずに、涅槃という悟りの世界を得ましょう」と解釈しております。人間の煩惱、いわゆる三つの毒「三毒」の「欲」「怒り」「愚痴」を断ち切ることは、なかなか出来ません。しかし、目の前のご

縁次第で人の気持ちは変わって行くのではないのでしょうか。ただ煩惱を完全にかき消すことは出来なくても、涅槃という「悟りの世界」を頂くことは出来るのではと思います。「悔しい」「苦しい」と恨みに自分が包まれた時、「自分は何故腹が立つのか」「自分は何故苦しいのか」と人間の心について、ふっと立ち止まり考えるのです。自分が煩惱の中に生き、自力でなんとかしようともがき苦しむ己の姿が見えてくるのです。もがけばもがくほど苦しみは大きくなり、その苦しみから抜け出すことは出来なくなるのではないのでしょうか。「自力は他力に支えられてあった」と親鸞聖人のおことばに教えられることが多くありました。自力だけでは、どうしても出来ない事の方が多いこの世の中、その中で、私の生きる力となっているのが、佛の教えであります。機会があれば一度でも多く仏法に縁を頂き、苦悩の日々を乗り越えていきたいと思っております。苦悩を経験して人は初めて「真の幸福とは何か」に気がつくのではないのでしょうか。そんな時、自然と「南無阿弥陀仏」と手が合わさるような気がします。私は、命の終わる時に、全てに感謝し「ありがとう」「南無阿弥陀仏」という言葉を残せるように、これからの日々を送れたらと思っております。